

研究実施のお知らせ

2024年12月17日 ver.1.0

研究課題名

慢性潰瘍に対し多血小板血漿療法を導入した症例における腎機能改善の可能性の検討

研究の対象となる方

2022年7月1日から2023年6月30日までの間に島根大学医学部附属病院で慢性皮膚潰瘍と診断され、多血小板血漿療法を受けられた方。

研究の目的・意義

私たちは、多血小板血漿（PRP）療法という治療法が腎臓の働きにどのような影響を与えるかを調べています。PRP療法は、患者さんご自身の血液を使い、特別な方法で作った「血小板が多く含まれる液体」を、治りにくい潰瘍に週1回注射する治療法です。通常、この治療は1回4週間を1つのサイクルとして行い、必要に応じて最大2サイクルまで続けます。

今回の研究では、PRP療法を受けた患者さんの腎臓の状態を調べるため、血中の「クレアチニン」という腎臓の働きを示す指標が治療の前後でどう変化するかを分析します。この結果から、PRP療法が腎臓の機能にも良い影響を与える可能性があるかどうかを明らかにしたいと考えています。

治りにくい慢性皮膚潰瘍は、糖尿病や動脈硬化などの病気を背景として起こることが多く、これらの病気が腎臓に負担をかける場合もあります。特に腎臓に急激なダメージ（急性腎障害）が繰り返されると、腎臓の働きが徐々に悪化してしまうことがあります。これまでに動物を使った研究では、PRP療法が腎臓の負担を軽減し、腎臓の働きを守る効果があることが報告されています。ただし、人で同じような効果が見られるかどうかはまだ分かっていません。当院では2022年からPRP療法を行っており、治療を受けた患者さんの中で腎臓の指標であるクレアチニン値が下がる傾向があるように思われました。そこで、この研究では、PRP療法が腎臓の働きに与える影響を統計的に評価することを目指しています。具体的にはPRP療法の前後でクレアチニン値がどのように推移するのかということについて統計的に解析します。この研究の結果は、今後の治療法の発展や新たな可能性の探求につながると期待しています。

研究の方法

島根大学医学部附属病院形成外科において難治性皮膚潰瘍と診断され、PRP 療法の導入に至った患者さんのカルテに記載されている内容から、年齢、性別、慢性潰瘍の契機となった疾患、PRP の投与回数、投与期間、クレアチニン値（投与開始直前、PRP 療法終了直後、PRP 療法終了 2 週間後）を収集します。

患者さんのお名前等の個人情報解析するデータに含まれません。解析データと個人情報の研究対象者リストは、研究責任者が施錠できる部屋でパスワードロックされたパソコンを用いて保管します。収集した情報の統計解析を行い、PRP 療法導入前後のクレアチニン値が有意に低下するかどうかを検討します。

研究の期間

2025 年 1 月 19 日～2025 年 9 月 30 日まで

研究の公表

この研究から得られた結果は、医学関係の学会や医学雑誌などで公表します。その際にあなたのお名前など個人を識別できる情報を使用することはありません。

研究組織

この研究は島根大学医学部附属病院形成外科が行います。

研究責任者（研究で利用する情報の管理責任者）：

島根大学医学部附属病院 形成外科 須田翔太

情報の利用停止

ご自身の情報をこの研究に利用してほしくない場合には、ご本人または代理人の方からお申し出いただければ利用を停止することができます。

なお、利用停止のお申し出は、2025 年 6 月 30 日までをお願いいたします。それ以降は解析・結果の公表を行うため、情報の一部を削除することができず、ご要望に沿えないことがあります。

この研究で集める情報は、研究を始める前から既に誰のものか識別できないようになっています。そのため、ご自身の情報をこの研究に利用してほしくないといった申し出に対してはご要望に沿うことはできませんのでご了承ください。

相談・連絡先

この研究について、詳しいことをお知りになりたい方、ご自身の情報を研究に利用

してほしくない方、その他ご質問のある方は次の担当者にご連絡ください。

研究責任者：

島根大学医学部附属病院 形成外科 須田翔太

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

TEL: 0853-20-2210